

障害があるアスリートに向けた企業の支援が多様化している。伴走するガイドランナーも一緒に雇用するほか、国外への移籍時に海外人事を発令して支える動きもある。東京開催でパラリンピックの認知度が高まってから3年。柔軟な働き方を支え、社内にも多様性を根付かせようと模索が続く。

パラ選手、企業の支援多彩

伴走者雇用／移籍へ海外人事

得後、ガイドランナーの長谷部匠さんも同社に転職し、ともに練習を続けてきた。選手とロープでつながり、口頭でコースの状況などを伝えながら並走するガイドランナー。選手と一心同体の存在だが、一緒に雇用するのは異例だ。和田選手からの相談を受け、話し合いや社内協議を重ねて採用に至った。2人は社外での講演や社内サイトなどでの発信も担当する。同社は雇用をきっかけに22年、競技団体と連携して陸上競技大会「NAGASECUP」を立ち上げた。障害の有無を問わず競う種目を設け、国立競技場で23年に開いた第2回大会はパラアスリート約450人を含む1424人が参加した。24

柔軟な働き方を推進

東京大会での活躍が目にと留まり、強豪チームから声がかかった。同社が海外に選手を送り出した前例はなかったが「可能性を追求したい」という熱意に応えようと人事制度の枠組み内で挑戦を後押しした。現地では欧州法人が展開する学校訪問などの地域活動に加わり、社員として業務を続けた。別のチームと契約した

年10月に予定する。担当者は「社内の一体感が醸成され、働くことに誇りを感じてもらえる」と話す。あおいニッセイ同和損害保険は22年、車いすバスケットボールのドイツリーグに移籍した秋田啓選手に対し、欧州にある同社の現地法人所属とする海外人事を発令した。東京大会での活躍が目にと留まり、強豪チームから声がかかった。同社が海外に選手を送り出した前例はなかったが「可能性を追求したい」という熱意に応えようと人事制度の枠組み内で挑戦を後押しした。現地では欧州法人が展開する学校訪問などの地域活動に加わり、社員として業務を続けた。別のチームと契約した

23年のシーズンは海外駐在員を育てる制度を利用し、研修員として再び渡欧した。24年秋以降のオフシーズンについても調整中という。

パリ大会で競泳女子1000メートル（視覚障害者）に出場した小野智（S11）は23年に64歳で引退した。12年の設立以降で最多となった。24年1〜6月だけで33人

採用を始めた15年から競技と仕事を両立する「デュアルキャリア」を掲げ、選手引退後の勤務継続を前提に配属してきた。

広報部スポーツチームの倉田秀道さんは、職場の一員として選手の柔軟な働き方を支えることが「多様性への理解など会社全体の土台づくりにもつながる」と話す。

「障害者の視点が業務やサービスに生きる」と比べてスポーツは五輪に比べてスポンサー契約が限られ、12年ロンドン大会当時はメダリストでもはななく、選手・社員としてキャリア形成を支えることが難しくなかった。だが、自国開催の東京

大会を機にパラアスリートの雇用に関する意識が高まり、パリ大会に向けて認知度はさらに高まった。障害があるアスリートの人材紹介を専門とするつなひろワールド（東京・千代田）は23年に64歳で引退した。12年の設立以降で最多となった。24年1〜6月だけで33人

採用を始めた15年から競技と仕事を両立する「デュアルキャリア」を掲げ、選手引退後の勤務継続を前提に配属してきた。

広報部スポーツチームの倉田秀道さんは、職場の一員として選手の柔軟な働き方を支えることが「多様性への理解など会社全体の土台づくりにもつながる」と話す。

「障害者の視点が業務やサービスに生きる」と比べてスポーツは五輪に比べてスポンサー契約が限られ、12年ロンドン大会当時はメダリストでもはななく、選手・社員としてキャリア形成を支えることが難しくなかった。だが、自国開催の東京

大会を機にパラアスリートの雇用に関する意識が高まり、パリ大会に向けて認知度はさらに高まった。障害があるアスリートの人材紹介を専門とするつなひろワールド（東京・千代田）は23年に64歳で引退した。12年の設立以降で最多となった。24年1〜6月だけで33人

採用を始めた15年から競技と仕事を両立する「デュアルキャリア」を掲げ、選手引退後の勤務継続を前提に配属してきた。

広報部スポーツチームの倉田秀道さんは、職場の一員として選手の柔軟な働き方を支えることが「多様性への理解など会社全体の土台づくりにもつながる」と話す。

「障害者の視点が業務やサービスに生きる」と比べてスポーツは五輪に比べてスポンサー契約が限られ、12年ロンドン大会当時はメダリストでもはななく、選手・社員としてキャリア形成を支えることが難しくなかった。だが、自国開催の東京

大会を機にパラアスリートの雇用に関する意識が高まり、パリ大会に向けて認知度はさらに高まった。障害があるアスリートの人材紹介を専門とするつなひろワールド（東京・千代田）は23年に64歳で引退した。12年の設立以降で最多となった。24年1〜6月だけで33人